

介護予防・日常生活支援総合事業

【資料2-1】

【R5年度目標】 1. 実態把握訪問で高齢者の現状を把握し、住民が参加しやすい通いの場を増やすための取り組みについて検討する。
2. 通所型サービスC事業の効果を周知するとともに、自立支援の考えを啓発していく。

1. 令和4年度の取組

<みんなで笑おう◎元気アップ教室>

- ・国の補助事業を活用し、各地区スポーツクラブと連携しながら、高齢者の健康・生活状況を把握し、通いの場の紹介や自宅でできる運動指導を実施することを目的に訪問を実施。新規開催場所や新規参加者の掘り起こしのため、対象とする町内・集落を選定し実施した。
- ・感染症対策を行い事業は休止せず実施したが、町内・集落の判断で感染拡大状況により、中止する所もあり、計画の回数は、実施できなかった。

■みんなで笑おう◎元気アップ教室実施件数(R5年1月末時点)

令和4年度	村上	荒川	神林	朝日	山北
実施箇所	40か所	15か所	27か所	17か所	11か所
実施回数	525回	46回	185回	59回	50回
参加延人数	3999人	507人	1562人	514人	434人
スポーツクラブ訪問 町内・集落数	5	3	4	3	3

<元気応援通所サービスC>

- ・元気応援むらかみ教室の委託先を変更し、大分県モデル事業に習った形で事業実施した。
- ・R3年度、朝日地区で実施したモデル事業の取り組みを住民や介護事業所に対して、市報や研修会、講演会等で紹介した。生活不活発による高齢者の虚弱の予防やセルフケア、自立支援の考えを啓発することができた。

■元気応援通所サービスC実施件数

令和4年度	村上	荒川	神林	朝日	山北
実施回数	24回	16回	14回	24回	12回
参加実人数	10人	13人	8人	16人	9人

2. 令和5年度の取組

○実態把握訪問で高齢者の現状を把握し、住民が参加しやすい通いの場を増やすための取り組みについて検討する。

…長期化した新型コロナウイルス感染症の影響により、高齢者の心身機能の低下による健康への影響や地域のつながりの希薄化が懸念される。R4年度は職員体制により、実態把握訪問はほとんど行えなかったため、対象者への訪問を実施し、高齢者の現状を把握していく。把握した内容をもとに通いの場についても検討を行っていく。

○通所型サービスC事業の効果を周知するとともに、自立支援の考えを啓発していく。

…大分県モデルに習って実施した朝日地区と村上地区の参加者は、生活課題が解決でき、自立支援につながった。教室での効果を様々な機会でも周知していくとともに、生活不活発による高齢者の虚弱の予防やセルフケア、自立支援の考えを啓発していく。